

“古代ロマン”に触れてみよう 大室古墳群の史跡整備が終了しました



空から見た大室公園周辺

大室公園内に点在する大室古墳群では、平成九年度から進められてきた史跡整備がこのほど完成。先月二十九日には記念イベントも盛大に開催され、多くの人たちでにぎわいました。今回は文化財保護課でそれぞれの古墳の特徴や整備概要などについて取材しましたので、ご紹介します。皆さんも自然豊かな大室公園へ出掛けて 古代ロマン に触れてみませんか（担当は市民編集委員・杉山、三輪）。

大室古墳群史跡整備事業についての問い合わせは文化財保護課
1
9
5
3
1
へ。
23

前二子

前方後円墳の墳丘は一段に盛られ、特に上段が高くなっています。古墳を雄大に見せて います。

This map illustrates the Ōmuro Park area, featuring several ancient burial mounds (Kofun) and associated facilities. Key locations include:

- Wind渡る丘 (Kaze no wataru no oka)
- North Parking Lot (P)
- Time Square (Tsu no Ōdōraku)
- Small Two-sons Kofun
- Later Two-sons Kofun
- Historical Site Overall Model
- Large Ōmuro Family Compound
- Ancient Residential Area
- Wind's Passage (Kaze no wataru no oka)
- Five料沼 (Gōryō-numa)
- All are welcome (minnna no heshirappō)
- Ja-pu Ja-pu Pond (Japujapu-i不准)
- Public Management Office (Kōen riōri shisōkan)
- South Parking Lot (P)
- Three-sons Kofun
- Large Ōmuro Family Compound
- Convenience Store (コンビニ)

Surrounding areas and landmarks shown on the map include:

- To the North: Kiso River Area (Kiso-gawa chihi)
- To the South: Ise City (Ise-shi)
- To the West: Ōmuro Station (Ōmuro Sta.)
- To the East: Ōmuro Park Management Office (Kōen riōri shisōkan)

A compass rose indicates North (N), and a scale bar shows distances up to 500 meters.

した。入り口からは埋葬の儀式に使われた土器も出土。火をいた跡があることからも、最後の食事をしながら死者との別れを惜しむという、豪族たちの儀式が思い描かれます。

後円墳です。一つは地中を掘つて、地面よりも低い位置に石室を造ること。これによつて、墳丘の盛り土を節約しています。二つ目は盛り土が少なくなつたことで、後円部の直径が小さくできたこと。これで石室の長さを押さえながら、天井までの高さを確保できました。

儀式に使われた煮炊きの跡なども

の大きさなどは下表のとおり。赤城型民家や古代住居も整備されました。

また、「風のわたる丘」時の
広場「みんなのはらっぱ」なども次々と整備されています。
こうした歴史や自然に恵まれたこの公園は、昭和六十年
度から造成に着手。面積三

学べる公園で
六・九の広大な総合公園で、市民の憩いの場として愛されています。

4つの国指定史跡				
名 称	指定日	長さ	高さ	
前二子(まえふたご)古墳	昭和2年 4月8日	94	14	
中二子(なかふたご)古墳		111	15	
後二子(うしろふたご)古墳		85	11	
小二子(しょうふたご)古墳		38	5	

古墳は六世紀に造られ、一千四百
年もの歳月を経ましたが、地域
の遺産として手厚く保護されて
いました。流失部分の盛り土や
流れた土のすき取りで墳丘を整

形し、周辺環境を守りながら整備。一方、小二子は破壊が激しく、築造当時の姿に復元作業を行いました。

その名のとおり、規模は小さ
いながらも一段の墳丘とそれに
形象埴輪群と円筒埴輪列を復元

④

見合つた横穴式石室、平坦部の円筒埴輪列、埴丘部の形象埴輪など、この時代の基本的な前方後円墳の造りになっています。石室は完全に破壊されていますが、その入り口部分は壊されずに残されていて、埋葬時の状態がよく分かります。また、崩れ落ちた多くの埴輪片が見つかりました。後円部には、家や太刀、盾などをかたどった埴輪二十四個、前方部には、全身像の貴人、半身の武人、飾り馬など十一個を復元するとともに、計三十七個の円筒埴輪を二間隔で配置しています。

地元の人たちによつて開けられました。入り口から奥まで、十四近くもの長さがあることが特徴。門と扉があり、床も土のままでなく石が敷き詰められています。造られた当時は、石室全体が「べんがら」によつて赤く塗られていたとのことです。また、石室からは金メッキされた馬具の飾りが出土しました。武器や武具以外の副葬品には鏡、ガラス玉などを使つた装身具、たくさんの土器類などが発見され、後期古墳時代の特徴が見られます。

一つだけ石室が発掘されていません。その位置について、最近電磁波測定や電気探査といった最新技を使って調査しましたが、いまだに不明です。

今後も、当分の間は石室を掘り出す予定はありません。古代遺産が大切に保存されている石室内にどのような副葬品があるのか、謎が未来へと残されます。外からしか見学できませんが、二百十七個の埴輪^{はにわ}が復元展示されています。

A black and white photograph showing a person standing on a grassy slope next to a body of water, with trees in the background.